



# 由利本荘市地域公共交通計画

## 概要版

令和6(2024)年3月策定



### 1. 本計画の目的

本計画は、人口減少や少子高齢化の進展が著しい本市において、由利本荘市新創造ビジョンなど本市の他の計画と整合を図りつつ、令和6(2024)年度から令和10(2028)年度までを対象とした「由利本荘市地域公共交通計画」(以下「本計画」という)を策定し、将来にわたって持続可能な交通体系を構築することが目的です。

#### 目指すべき将来の公共交通ネットワーク

#### ◆広域の公共交通ネットワーク

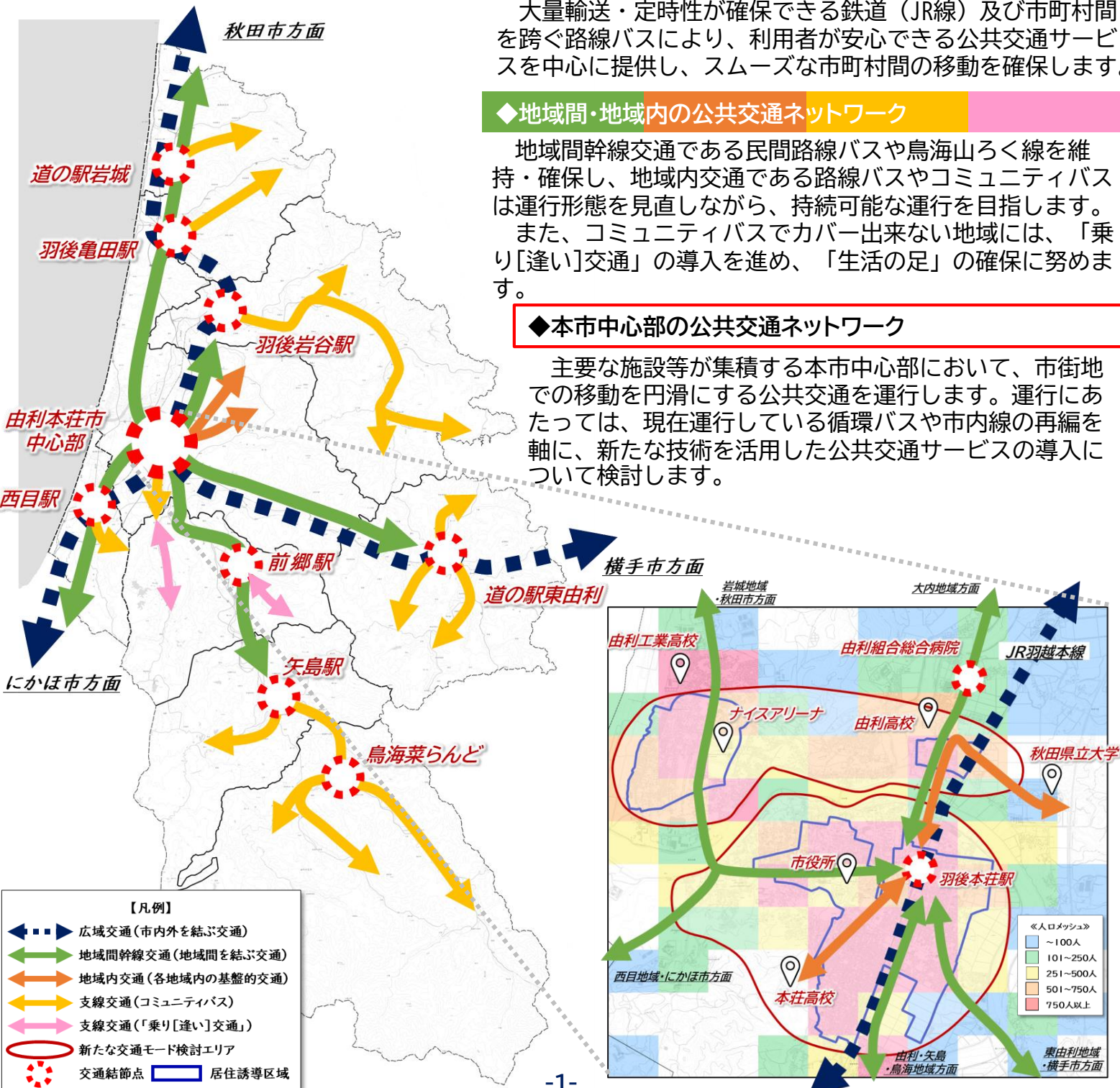
大量輸送・定時性が確保できる鉄道(JR線)及び市町村間を跨ぐ路線バスにより、利用者が安心できる公共交通サービスを中心に提供し、スムーズな市町村間の移動を確保します。

#### ◆地域間・地域内の公共交通ネットワーク

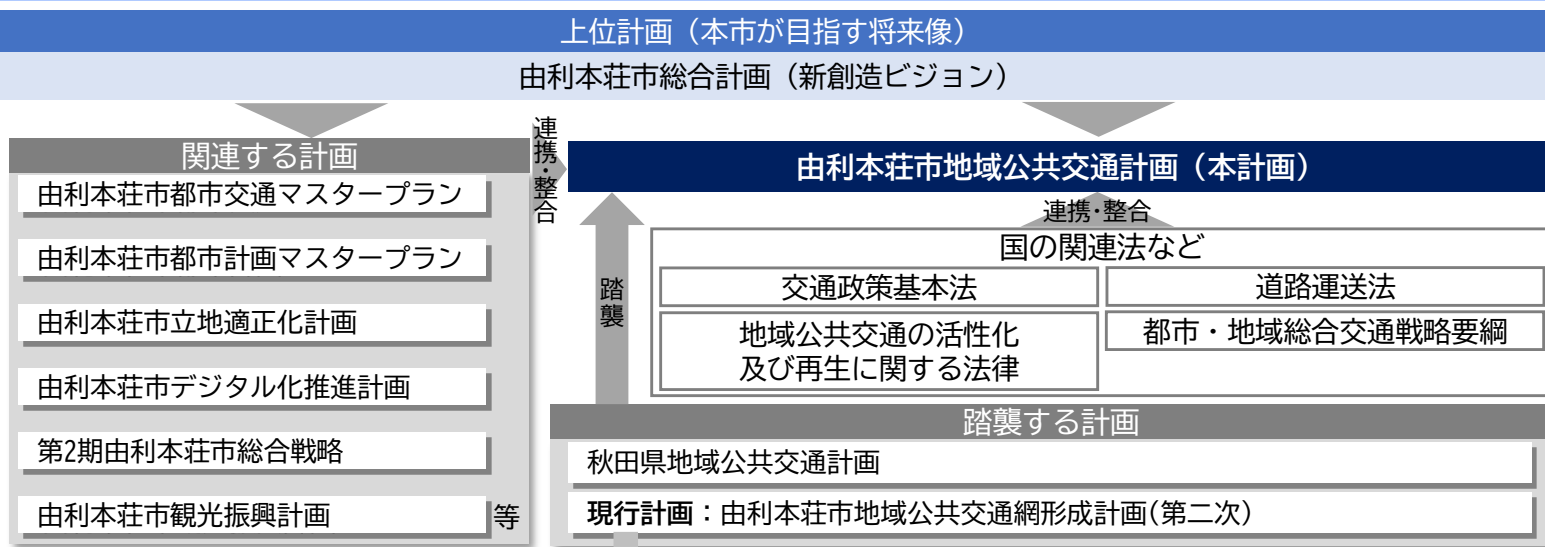
地域間幹線交通である民間路線バスや鳥海山ろく線を維持・確保し、地域内交通である路線バスやコミュニティバスは運行形態を見直しながら、持続可能な運行を目指します。また、コミュニティバスでカバー出来ない地域には、「乗り[逢い]交通」の導入を進め、「生活の足」の確保に努めます。

#### ◆本市中心部の公共交通ネットワーク

主要な施設等が集積する本市中心部において、市街地での移動を円滑にする公共交通を運行します。運行にあたっては、現在運行している循環バスや市内線の再編を軸に、新たな技術を活用した公共交通サービスの導入について検討します。



## 2. 本計画の位置づけ・地域公共交通の現状と課題・施策の方向性



### ○現行計画における8つの課題

【課題1】 高齢化・過疎化に伴い増加する交通弱者への対応

【課題2】 交通空白地域の対応

【課題3】 地域ニーズに応じた運行形態の検討

【課題4】 バス・鉄道間の乗り継ぎの利便性向上

【課題5】 バス路線・運行情報の充実

【課題6】 交通結節点等における待合環境の整備

【課題7】 広域連携軸の強化

【課題8】 公共交通機関の魅力向上

### 各種調査結果や資料等の分析に基づく現状と課題

- 少子高齢化や人口減少、自家用車への依存が加速し、公共交通の利用者が減少しており、今後の路線維持が難しい
- 地域公共交通の主たる利用者である若年世代(19歳以下)割合は減少するものの高齢者人口(65歳以上)の割合と合計した値は増加すると推計されており、公共交通の環境整備が求められている
- 高校等の進学先の選択に、「地域公共交通により通学可能かどうか」が影響
- 働き方改革に伴う運転手の労働時間の短縮により、路線の存続が難しい状況が見込まれる
- 市内の居住地のほぼ全てを地域公共交通でカバーしているが、公共交通空白地域も未だ存在している
- 地域公共交通空白地域に居住する市民の約20%は、日々の外出において移動手段がなく「困ることがある」という状況にある
- 各地域から市中心部へのアクセスのための路線同士の接続性や市中心部におけるバス路線網が複雑である
- 交通事業者の慢性的な運転手不足により、新たなサービスの提供が難しい状況にある
- 本市における地域公共交通への公費負担は増加傾向にあり、効率化が求められる
- 高校生における公共交通HPの認知度が低い状況にあり、十分な情報は行き届いていない

### 施策の方向性① あらゆる世代の日常生活の移動を支える公共交通の展開

高校生をはじめとした若年世代、市内全域に暮らす高齢者など、引き続き市民の日常生活を支える公共交通の展開が求められる

### 施策の方向性② 広域な市域(地域間)の移動を支える公共交通ネットワークの再構築

路線全体をシンプルな形へ再編し、各地域からのアクセス向上に向けた接続を見直し、待合環境等の整備による利便性向上が必要

### 施策の方向性③ 持続可能な公共交通への転換

限りある資源を有効活用しながら、効率的な運行形態へ転換していくことが必要  
また、“選んでもらえる公共交通”となるために、情報入手方法の周知や新たな利用者獲得に向けた公共交通を利用する機会を創出し、持続可能な地域公共交通体系への転換に向けた取組が必要



### 3. 本市の地域公共交通が目指すべき方向性と将来像を達成するために実施するプロジェクト

#### 《計画の基本的な方針》

## 安心して「おでかけ」できる環境の創造 ～市民・事業者・行政の協力による持続可能な地域公共交通の再構築～

目指すべき公共交通ネットワークを構築するためのプロジェクトおよび施策・事業について、次の通り定めます。また、現行計画における事業を踏襲し、現在の課題に対応する形で実施する内容等を修正しながら継続していく施策もあることから、現行計画における事業との関係性も併せて整理しています。

現行計画からの継続事業⇒ **継続** 新たに取り組む施策⇒ **新規**

施策の方向性	方向性① あらゆる世代の日常生活の移動を支える公共交通の展開	方向性② 広域な市域(地域間)の移動を支える公共交通ネットワークの再構築	方向性③ 持続可能な公共交通への転換
	実施するプロジェクト及び施策		具体的な事業内容
	<b>プロジェクト1 公共交通幹線軸構築プロジェクト</b>		
	施策① 路線バス・鉄道の維持と最適化	<b>継続</b>	○運行ルートが重複している交通モード・路線の統合
	施策② 各交通モード間の乗り継ぎ利便性を高めるルート・ダイヤの調整	<b>継続</b>	○コミュニティバスを中心としたルート・ダイヤ調整 ○鳥海山ろく線への乗り継ぎ強化
	施策③ 待合環境の改善による乗り継ぎ利便性の向上	<b>継続</b>	○公共施設・民間施設と連携した待合環境の整備
	<b>プロジェクト2 地域内交通再編プロジェクト</b>		
	施策① コミュニティバスの再編	<b>継続</b>	○コミュニティバスの運行形態等の再編 ○鳥海山ろく線へのフィーダー交通導入の検討
	施策② 観光・福祉・商業等との連携による地域内移動ニーズへの対応	<b>継続</b>	○沿線のスーパーや医療機関との連携
	施策③ 「乗り[逢い]交通」事業の継続的な取り組みによる交通空白地域の解消	<b>継続</b>	○「乗り[逢い]交通」事業の導入と推進
	<b>プロジェクト3 安心して乗れる環境転換プロジェクト</b>		
	施策① 総合交通マップの作成及び地域公共交通HPによる情報発信	<b>継続</b>	○地域別の目的地検索ができる総合交通マップの作成 ○路線バス・コミュニティバスへのバスロケーションシステムの導入検討
	施策② バスロケーションシステムの導入	<b>継続</b>	
	施策③ 公共交通による子どもの見守りサポート	<b>新規</b>	○ODXを活用した子どもの見守りサポート事業の検討
	<b>プロジェクト4 おでかけ機会創出プロジェクト</b>		
	施策① 地域公共交通を体験する機会の創出	<b>継続</b>	○町内会等における出前講座や「お試し乗車」の実施
	施策② バスパックやイベント列車等の実施	<b>継続</b>	○バスパックやイベント列車の企画と実施
	施策③ 高齢者及び免許返納者への運賃等の補助	<b>継続</b>	○免許返納者や高齢者への運賃補助制度の再構築
	<b>プロジェクト5 次世代技術活用プロジェクト</b>		
	施策① マイナンバーカードを活用した取り組みの実施	<b>新規</b>	○マイナンバーカードを活用した乗降システムの導入検討
	施策② 中心部における新たな交通サービスの展開	<b>新規</b>	○AIオンデマンド等の新たな交通サービスの展開
	施策③ 貨客混載等の異業種との共創の検討	<b>継続</b>	○貨物事業者との共創による「貨客混載」の展開

## 4. プロジェクトに紐づく具体的な施策・事業及び実施スケジュール

プロジェクト	実施事業	実施スケジュール(年度)						実施主体
		~R5	R6	R7	R8	R9	R10	
プロジェクト1 公共交通幹線軸 構築プロジェクト	施策① 路線バス・鉄道の維持と最適化		検討		実施			由利本荘市 ・交通事業者
	施策② 各交通モード間の乗り継ぎ利便性を高めるルート・ダイヤの調整		検討		実施			由利本荘市 ・交通事業者
	施策③ 待合環境の改善による乗り継ぎ利便性の向上		検討		実施			由利本荘市 ・交通事業者 ・民間事業者 等
プロジェクト2 地域内交通 再編プロジェクト	施策① コミュニティバスの再編		検討		実施			由利本荘市 ・交通事業者
	施策② 観光・福祉・商業等との連携による地域内移動ニーズへの対応		検討・実証事業		実施			由利本荘市 ・交通事業者 ・関係事業者 等
	施策③ 「乗り[違い]交通」事業の継続的な取り組みによる交通空白地域の解消			実施				由利本荘市 ・交通事業者 ・地域住民
プロジェクト3 安心して乗れる環境 転換プロジェクト	施策① 総合交通マップの作成及び地域公共交通HPによる情報発信		(地域公共交通HPによる情報発信) 継続 (総合交通マップ) 作成		配布の実施			由利本荘市 ・交通事業者
	施策② バスロケーションシステムの導入		新規導入検討		継続実施 実施			由利本荘市 ・交通事業者
	施策③ 公共交通による子どもの見守りサポート		検討・実証事業		実施			由利本荘市 ・交通事業者 ・教育委員会 等
プロジェクト4 おでかけ機会創出 プロジェクト	施策① 地域公共交通を体験する機会の創出		新規事業検討		継続実施 実施			由利本荘市 ・交通事業者
	施策② バスパックやイベント列車等の実施		新規事業検討		継続実施 実施			由利本荘市 ・交通事業者 ・関連事業者 等
	施策③ 高齢者及び免許返納者への運賃等の補助		新規事業検討		継続実施 実施			由利本荘市 ・交通事業者
プロジェクト5 次世代技術活用 プロジェクト	施策① マイナンバーカードを活用した取り組みの実施		検討・実証事業		実施			由利本荘市 ・交通事業者 ・関連事業者 等
	施策② 中心部における新たな交通サービスの展開		検討・実証事業		実施			由利本荘市 ・交通事業者
	施策③ 貨客混載等の異業種との共創の検討			新規事業検討・実証事業		継続実施 実施		由利本荘市 ・交通事業者 ・関連事業者 等

## 5. 計画の達成状況の評価指標

計画の達成状況の評価するために、評価指標と目標数値を次の通り定めます。

目標値① 路線バスの延べ利用者数	現状値(R5年度) <sup>※</sup> :251,262人 ⇒ 目標値:251,262人以上
目標値② 路線バスの平均収支率	現状値(R5年度) <sup>※</sup> :28.4% ⇒ 目標値:28.4%以上
目標値③ コミュニティバスの延べ利用者数	現状値(R5年度) <sup>※</sup> :62,830人 ⇒ 目標値:62,830人以上
目標値④ コミュニティバス全路線の平均収支率	現状値(R5年度) <sup>※</sup> :8.6% ⇒ 目標値:8.6%
目標値⑤ 由利高原鉄道の延べ利用者数	現状値(R4年度):185,592人 ⇒ 目標値:185,592人以上

※現状値及び目標値はバス事業年度であり、現状値(R5年度)は「R4年10月～R5年9月」の数値

地域公共交通の利用者数が、これまでの5年間と同じように減少すると仮定すると、利用者数は令和10年度までに「**66,542人**」減少すると推計できますが、各種施策により、公共交通の利用者数の維持を目標とします。

交通モード	R5総利用者	R10総利用者推計	減少者数	減少率
総数	499,684人	433,142人	66,542人	約13.3%
路線バス	251,262人	215,930人	35,332人	約14.1%
コミュニティバス	62,830人	46,838人	15,992人	約25.5%
由利高原鉄道	185,592人	170,374人	15,218人	約8.2%

**市民全員が年間2回公共交通を利用することで達成できる目標です！**